

関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト 感染対策講じ、観客入れて開催

まん延防止等重点措置が延長され、あらゆるイベントが自粛要請を受け、活動が制限されていますが、**全日本合唱連盟関東支部**では、**第11回関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト**を予定通り3月12日(土) - 13日(日)、群馬県藤岡市みかぼみらい館大ホール(1,092席)において**有観客**での開催と決定しました。従って、録音音源との併用審査はせず、**表彰式なし**、審査結果は、ホームページで公表し、賞状等は後日送付されます。

また、開演時間を当初の予定より30分遅らせ、**客席は定員まで**使用します。入場券は1日券、自由席、席番号と連絡先を記入した用紙を退場時に提出します。出演者の指定席を設けるので、他団体の演奏を聴けます。

会場内では**演奏時も含め、不織布マスクを正しく着用**する(指揮者も同様)ことが必須です。参加料の納付後に辞退した場合、参加料は返還されません。

みかぼみらい館では、まん延防止等重点措置の延期により3月6日まで貸出を中止していますが、既に予約済の場合は主催者と感染対策について慎重に協議のうえ利用可能としているため、開催に影響はありませんでした。

3月12日(土)〈高等学校部門〉
3月13日(日)〈小学校・中学校部門及び一般部門〉
いずれも10時30分開会、10時35分演奏開始
〈審査員〉金川明裕、菅野正美、清水雅彦、辻 秀幸
松村 努の5氏
〈参加資格〉関東支部所属の茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、静岡の各県連加盟で、6名以上20名以下(小学校は25名以下、指揮者・伴奏者・独唱者を除く)の合唱団、かつ理事長の推薦を受けた合唱団であること。

エントリー数は、高校43団体、小中学校27団体、一般16団体です。感染対策を守りつつ、練習の成果を發揮して楽しく演奏して欲しいです。

詳しくはWEBサイトをご覧ください。<http://jcak.jp/>

消毒と殺菌ってどうちがうの？

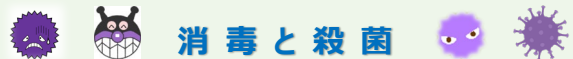
新型コロナウイルス感染症によって私たちの生活は一変してしまいました。日常どこへ行くにもマスク・手洗い・消毒がつき纏まといますし、ステージで歌うまでにはたくさんやらねばならないことがあります。よく使われるのは消毒用アルコールですが、そこに保湿剤を添加して手荒れを防いだり、他の抗菌剤を加えたものもあります。

例えば、クロルヘキシジングルコン酸塩を72.3w/w%[※]のエタノール溶液に溶かしたのがあります。クロルヘキシジンは、抗菌スペクトルが広く、比較的多くの細菌に効くという特長があり、それとエタノールを合わせて効果を高めようというものです。

※w/w%：上の例では、溶液(水)100g中に溶けている溶質(エタノール)の重さwが72.3gという意味です。日本薬局方の消毒用エタノールは、エタノール76.9~81.4vol%(15℃)と容積比で規定しています。これはアルコール76.9~81.4mlに水を加えて100mlにすることです。

ここからが本題です。殺菌、消毒、滅菌、抗菌など紛らわしい言葉がたくさんありますが、それらは厳密に定義されており、医薬品や医薬部外品以外には使えないものがありますので要注意です。

微生物の**殺滅**は、目的やその期待レベルによって多種多様です。日本薬局方では、滅菌を「すべての微生物を殺菌または除去すること」と規定しています。微生物が死滅するときは、指数関数的に数が減少するので、どのような殺菌法であっても生き残る確率を完全にゼロとすることはありません。そのために無菌性保証水準を設定し、この水準に達したときを滅菌と定義しています。一般に無菌性が保証できる水準 10^{-6} は、滅菌した物質中に1個の微生物が生き残る確率が百万分の1のことです。



消毒は、**病原微生物の数を減らすために用いる方法で「中毒や感染症を引き起こさない水準」**にまで殺滅または減少させることです。従って、微生物を減少させるはするが、すべての微生物を殺滅し、除去するものではありません。あくまで病原微生物を取り除くことが目的で、すべての微生物を殺菌・除去する滅菌とは明確に区別しています。

かたや、**殺菌**とは**特定の菌を殺すこと**。すべての菌を殺さなくても、全体の数が減ればこれも殺菌といい、また、特定の1種類の菌が減っただけでも殺菌といえます。(次回へつづく)